

**今日のトピック** 豪州の金融政策は18会合連続の据え置き（2018年4月）  
**物価目標達成までには時間を要する**

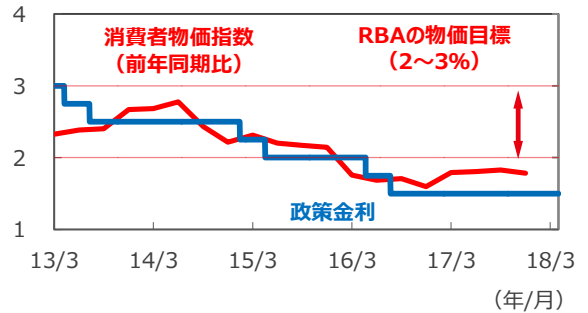
**ポイント1** 金融政策は現状維持  
予想通り1.50%で据え置き

- 豪州準備銀行（RBA）は、4月3日に開催した金融政策決定会合で、市場の予想通り政策金利を1.50%に据え置く決定をしました。現状維持は、18会合連続になります。ブルームバーグ社の集計によれば、対象29名のエコノミスト全員が据え置きを予想していました。

**ポイント2** 当面、金利は据え置きへ  
物価目標達成には時間を要する

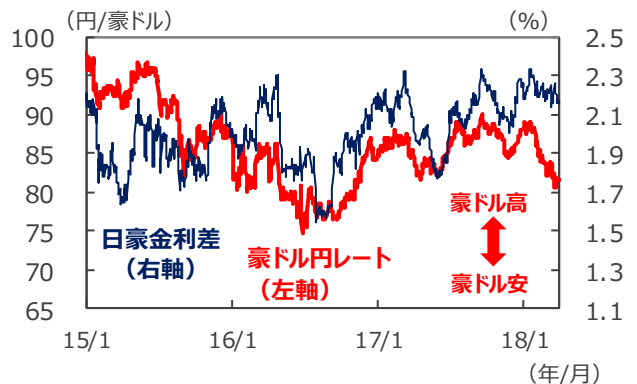
- RBAは、2018年の豪州経済について、成長率の加速を見込んでいます。賃金の伸び悩みから民間消費の先行きは依然として不透明ながらも、非資源企業の設備投資やインフラ（社会資本）投資の拡大、輸出の持ち直し等が予想されるためです。
- 消費者物価上昇率は、RBAの目標値の下限である+2%を下回った状態が続いていますが、「景気の拡大に伴い、インフレは2018年にRBAの目標レンジに到達する」との見方を継続しました。
- このような景気、物価の評価を踏まえ、「低金利は引き続き豪州経済の支えとなるものの、失業率のさらなる低下と物価目標の達成までには時間を要する」との判断を据え置きました。金融政策は当面、現状維持が予想されます。

【消費者物価指数と政策金利】



(注) 消費者物価指数は2013年1-3月期～2017年10-12月期。消費者物価指数は異常値をつけた項目を除外したトリム平均値。政策金利は2013年3月31日～2018年4月3日。  
(出所) Bloomberg L.P.のデータを基に三井住友アセットマネジメント作成

【豪ドル円レートと日豪金利差】



(注1) データは2015年1月2日～2018年4月2日。ただし、為替の直近値は2018年4月3日14時時点のもの。  
(注2) 金利差は豪州－日本。金利はともに3年国債利回り。  
(出所) Bloomberg L.P.のデータを基に三井住友アセットマネジメント作成

**今後の展開** 豪ドルは落ち着きどころを探る展開へ

- 足元の豪ドルの対円相場は、米中の貿易摩擦激化の懸念や、それによるリスク回避の動きの強まり等から軟調な展開となっています。当面は、神経質な動きが続くことが予想されます。
- ただ、豪州の堅調な景気拡大、日本と豪州の金融政策の方向性の違い（日銀は金融緩和姿勢維持、RBAは据え置きの見通し）等を踏まえると、豪ドルは次第に落ち着きを取り戻すと見られます。

**ここもチェック!** 2018年3月23日 拡大を続ける豪州経済（2018年3月）  
2018年3月 7日 豪州の金融政策は引き続き現状維持（2018年3月）

■当資料は、情報提供を目的として、三井住友アセットマネジメントが作成したものです。特定の投資信託、生命保険、株式、債券等の売買を推奨・勧誘するものではありません。■当資料に基づいて取られた投資行動の結果については、当社は責任を負いません。■当資料の内容は作成基準日現在のものであり、将来予告なく変更されることがあります。■当資料に市場環境等についてのデータ・分析等が含まれる場合、それらは過去の実績及び将来の予想であり、今後の市場環境等を保証するものではありません。■当資料は当社が信頼性が高いと判断した情報等に基づき作成しておりますが、その正確性・完全性を保証するものではありません。■当資料にインデックス・統計資料等が記載される場合、それらの知的所有権その他の一切の権利は、その発行者および許諾者に帰属します。■当資料に掲載されている写真がある場合、写真はイメージであり、本文とは関係ない場合があります。